

パネルディスカッション

「通学路における子供の安全確保のためにできること」

司会

それではお時間となりましたので、パネルディスカッションを始めさせていただきます。進行は基調講演をお願いしました明治大学の山本先生をお願いいたします。

パネリストには青少年・治安対策本部の河合潔本部長、先ほど講演いたしました都教育庁の秀嶋善雄部長、そしてこの東京芸術劇場がございます地元豊島区の高野之夫区長、先ほど講演いただきました明大前ピースメーカーズの代表、本杉香さん、そしてこのたび児童への切りつけ事件が発生しました練馬区から保護者を代表しまして、PTA 連合協議会会長の横澤由明さんに加わっていただきます。

それでは、山本先生よろしくをお願いいたします。

山本俊哉（コーディネーター）

はい、分かりました。それでは、これから「通学路における子供の安全確保のためにできること」と題しまして、4時30分まで45分間という限りのある時間ですけれども、ここに登壇されている方々と意見交換をしていきたいと思えます。

前半たっぷりとお話がありましたので、簡単に気がついた点をご紹介します。

最初に警視庁の山口さんから「情報共有が大事だ」というお話がありました。データに基づいて、どんな所でどんな時間帯に犯罪が発生しているのかということ共有していくとのことでした。

それから教育庁の秀嶋さんからはスクールガードの話と、防災と絡めた他の担い手との連携も重要というお話がありました。

東京都の五十嵐さんからはとりこぼしがないように「隙間」というキーワードがありました。

本杉さんからは「区境」というお話がありました。空間的な境目としての「隙間」も、一つポイントとしてあるのかなと思えました。

そして廣戸さんからは事件の具体的なお話がありました。あの事件を振り返りますと、現場の近くに大人がいたということがポイントになった訳ですが、（暴力的な犯罪は）大人がいても発生するのですね。奈良、広島、栃木で発生した事件を思い起こした人も多かったと思いますが、7、8年前のことです。その後は子供を標的にした犯罪は減少し、死傷を伴う事件も見られなくなったのですけれど、やはり完全に無くすことは難しい訳です。

そういった点で、警察や行政、学校、そして地域の取組がとても重要になります。地域ぐるみで取り組んでいかなければなりません。本杉さんの取組は、商店街から発展していったとのこと。明治大学の学生がいろいろとご迷惑を掛けたことが一つの出発点になったようですが、ピースメーカーズの取組にも明大の学生ボランティアが参加していたと聞いております。

今日はこれから通学路について、全体的には子供を見守るという視点で話してまいります。廣戸さんは交通安全の分野でしたが、防犯にとどまらず、その他の取組についても触れてまいりたいと思います。

それから（子供見守りは）マンツーマンディフェンスではなく、ゾーンディフェンスで面的に広げていく。言葉でいうほど簡単ではないのですが、この後の皆さんとの話合いの中で、できるだけ具体的に、これから、こういう形で連携して取り組んでいくというお話ができればと思います。

前置きはこれくらいにいたしまして、さっそくパネルディスカッションに入りたいと思います。

まずは河合さん、このたび東京都に就かれた訳ですが、これまではずっと警察行政を担われたということで、本題に絡んでの全体的な所見を少しお話してください。

河合 潔（東京都青少年・治安対策本部長）

青少年治安対策本部長の河合でございます。よろしくお願いいいたします。今年の6月に就任いたしました。今ご紹介がありましたとおり、ここ2年間は警視庁の生活安全本部長、警察庁の生活安全企画課長を務め、現在の職に就いております。

今回のテーマであります児童の安全確保につきましては、東京都の治安対策行政、あるいは警察行政という両面からお話できると思っております。

それでは皆さん方のお手元に「規範意識の向上と地域の絆の再生」という紙が一枚あるかと思いますが、それをご覧いただきながらお話をさせていただきたいと思います。先ほど、警視庁の方や東京都の五十嵐部長から、「犯罪件数は減っている。けれども安心感はなかなか上がらない。」という話がございました。はっきり言えることとして、犯罪件数が減っているということは、地域の方々がしっかりと頑張ってくれている成果であります。警察でも警察官が増えておりますが、防犯ボランティアは平成14、15年の頃と比べまして26倍と格段に増えております。

資料をご覧いただきますと、「規範意識の向上と地域の絆の再生」の隣に、「この中に子供の見守り活動がある」と書いてございます。これは今、山本先生がおまとめになった地域の力、地域社会としてどうなのかということでございまして、子供の見守

り活動だけが独立してあるということではありません。みんなでちゃんと地域社会の力を作りましょう。通学路における子供の安全確保のために、いろいろな人が努力しなければいけないということでございます。

後でお話があると思いますが、できれば小学校の校区という単位でみんなが頑張ることが大事なのだと思います。そういう意味で、安全・安心を確保するために、交通の問題、地域の問題、あるいは学校の方々を含めて活動する方々を増やすことで犯罪者が活動しにくい地域環境を作ることが大事になります。

次に、「各機関の連携が不可欠」と一番下の行にございます。そして英語で「not knowing」（「知らない姿勢」）という、少し分かりにくい言葉があります。これは何を言っているかということ、山本先生の話の中には、いろいろな人が活動するときには役割分担、協力関係の確認が必要という話がございました。連携が必要だと言っても、何をやるのか、交通安全なのか、人の誘導なのか、お互いに役割を知っていないと何もできません。

その上で「子供を見守ることもしましょう。」という形であることが大事です。子供を見守ることだけができる場合もありますが、いろいろな人がいろいろな役割分担をちゃんとしているということを互いに知っていなければなりません。そこで「not knowing」、すなわち、お互いよく知らないのだから、まずお互いの役割分担、協力関係を確認して行動しましょうと書いてあるのです。

それから、その一行前に「持続可能な活動であること」と書いてあります。先ほどピースメーカーズの方からお話ございましたが、「10何年間ずっとやってこれたのは何故なのか。」ということもあるかと思います。やはり途切れてしまいますと、犯人がつけ込む穴、隙間ができてしまいます。人づくりは一朝一夕にできません。そういうことも含め、日々継続して持続可能に行うことが必要なのだということが書いてあります。

もう一つお話ししますが、最近、防犯カメラが増えているというお話がありました。ここでお願いしたいのは、防犯カメラが増えることも大事ですが、防犯カメラだけで良いという話ではありません。あくまでも人の見守りをしっかりとやってもらう必要があるのです。

また、防犯カメラには何ができるのか。4つのこと「疲れない、眠らない、見逃さない、忘れない」と書いてあります。人にできないことも防犯カメラはできます。しかし、防犯カメラにもできないことはあります。それらが両方備わると、地域社会の安全・安心の力を上げていくことになると考えています。今後ともよろしく願います。

山本俊哉（コーディネーター）

秀嶋さんには先ほどお話しいただきましたので後ほどということにさせていただきます。次に、今日は地元豊島区の高野区長にも登壇していただきました。

豊島区はセーフコミュニティに認証され、今日はセーフスクールに認証された朋有小学校の方々もいらしているとのことです。その辺も含めまして一言よろしくお願ひします。

高野之夫（豊島区長）

豊島区長の高野之夫でございます。今日はこの豊島区池袋の芸術劇場で、子供見守りシンポジウムを開催していただき、心より感謝を申し上げる次第でございます。

山本先生からご紹介のように、豊島区は昨年11月、「セーフコミュニティ」という、WHOによる安全安心まちづくりの国際認証を取得することができました。これは世界で296番目、国内でも5番目となります。もちろん東京では初めてでございます。

豊島区は日本一の高密都市でございます。人が集まり、物が集まり、そして情報が集まる中では、必ず事件や事故など様々な課題を抱えるところでございます。そうした中大都市において、様々な地域の主体が連携して、安全安心まちづくりの国際認証を取得できたということは、大きな自信につながりました。

これを取得するためには、まず取組宣言を行い、いろいろなかたちでWHOと緊密な連携を取りながら、地域の課題を分析し、原因を探り、対策を改善するといった取組を2年間行います。そして、中間審査、最終審査を経て、はじめて認証を得ることができたものでございます。

また同時に、池袋のサンシャインシティの近くにある区立朋有小学校が、日本で3番目の「インターナショナルセーフスクール」という国際認証を取得いたしました。今日は校長先生もお見えですね。

セーフコミュニティもセーフスクールも、河合さんが警視庁の生活安全部長でいらしたときに、いろいろな面でバックアップ、ご指導をいただきながら、取り組んだものであります。

セーフコミュニティ活動の基本は「予防」であり、そのキーワードは「科学」そして「コミュニティ」ではないかと思っております。

さしずめ「科学」と「コミュニティ」の力で地域の安全を守っていくということではないかと思っております。事故や怪我、そして暴力や自殺というものは、決して偶然の結果ではなく、運が悪かったとか、他人の問題として終わらせてはならないわけでありまして。地域の課題とは何か。どこでどのように発生して、何が原因なのかとい

うことをデータに集めて科学の目で分析する。そしてそこから効果的な対策を生み出すのが、まさにセーフコミュニティのスタイルです。

事故や犯罪の予防というものは、やはり生活者一人ひとりの意識、ひいては地域のコミュニティの意識と行動が変わって初めて可能になるものです。今日のテーマは、まさに私たちが取り組んでいるセーフコミュニティ、セーフスクールに通ずるところがありますので、皆さんと一緒に勉強をさせていただけたらと思っております。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。本杉さんには先ほどお話いただきましたので、後ほどお願いいたします。それでは、事件があった練馬区小学校 PTA 連合協議会会長の横澤さん、お願いします。

横澤由明（練馬区小学校 PTA 連合協議会会長）

練馬区小学校 PTA 連合協議会の会長を務めさせていただいております横澤です。

大泉第一小学校の事件の当該区の PTA を代表して、また現役の保護者の立場で、今日はお話させていただければと思っております。

通学路における子供の安全確保でございますが、先ほどから防犯と交通安全の2つがあるのかなと思っております。交通安全を鑑みますとどうかなと思うのですが、防犯を見ますとやはり子供を一人にしないことが大切ではないかと思えます。

これは各学校の事情によっても違いますが、集団登校をやられたら良いのではないかと考えます。また、学校あるいは地域の皆様、PTA もそうですし、行政等々もいろいろな見守り活動をやっている訳ですが、私どもも PTA の立場から見ますと、「どうも縦割りだな。折角同じような活動をしているのに横の連携がないな。」とつくづく痛感しています。どこかが中心となって、横の連携を支えることが肝要ではないかと思っております。今日はそこら辺をお話ができたらと思っております。

最後になりますが、練馬区では今年の6月から第2土曜日の授業が始まっています。先ほど高野区長さんにお伺いしましたら、豊島区でも土曜日に授業があるということで、「土曜日授業日のスクールゾーン化」これも喫緊の課題として、子供たちを交通事故から守るという意味で必要ではなからうかと思っております。本日はよろしく申し上げます。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。先ほど申し上げたとおり、ここには、学校、地域、警察、

行政、PTA・保護者それぞれの立場を代表する方々に登壇いただいています。

さて、「地域で子供の見守りの目を増やしていくにはどうしたらよいのか。」という
ことで、秀嶋さん、学校現場はとても忙しく、通学路と言いますと学校の外にあるた
めできることも限られていると思いますが、学校にできることと言えば何でしょうか。

秀嶋善雄（教育庁地域教育支援部長）

私からは先ほどいろいろと申し上げましたが、私どもの「地域ぐるみの学校安全体
制整備推進事業」のほかにも、豊島区長さんからお話がありましたとおり、セーフコ
ミュニティやセーフスクールの認証取得など、各地域でいろいろな取組がなされてい
ると思います。ただし、そういう活動を進めるためには、学校と地域が互いに信頼関
係をきちんと持ち、そういう中で見守りを行うことが重要です。学校安全ボランティ
アの紹介もさせていただきましたが、いろいろな形で地域と学校が結びついてやって
いる事例が多々ございます。

例えば、（地域と学校とが）良好な関係にある中では、どういう時間帯に子供たち
が下校するのか地域の方が分かっておられたりすると、きちんとそういう目で見てい
ただける。私ごとで恐縮ですが、私が住んでいる所では、子供の安全ということで、
「地域の皆さん、子供の安全を見守りましょう。」というのが必ず午後2時と5時に
時報の代わりに鳴ります。5時の時は「良い子の皆さん、帰りましょう。」と鳴り、
それに合わせて児童館も（子供たちの）退室を促しています。

そうなりますと、地域の方にも「子供がここを通る。」ということで見守っていた
だけ。このようにうまく学校を絡めながら、単なる時報ではなく、そういうものを
思い起こしながら見守るなど、いろいろな工夫ができると思います。その辺を一つず
つ積み重ねていくことが重要ではないかと考えています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。本杉さん、先ほどの河合さんの話では、「持続可能な活動」
がキーワードだと思うのですが、12～13年も続けてきたその秘訣を短く、コンパク
トにお話しいただけませんか。

本杉 香（明大前ピースメーカーズ代表）

私は12年間ずっと火曜日と金曜日の朝7時50分から8時30分まで、小学校の
登校の見守りをやっています。夜のパトロールも火曜日と土曜日の夜9時に、民間交
番、詰所に集まって15分くらいミーティングをした後1時間パトロールしています。

その後詰所に戻り反省のミーティングをして報告書を書くということを12年間続けてきました。12年間続いた理由の一つとして、「毎週1回は出勤すること。」を義務付け、そして「週2回以上は出勤させない。」これが我々の活動が続いてきた一つの理由ではないかと思えます。

「1か月に1回で良いんだよ。」とも言われるのですが、あまり間が空いてしまうと駄目なんですね。1週間に1回くらいが人間のリズムとして非常に良い。リタイアしたばかりの60そこそこの人の中には、「私、毎日出られます。」と言う方もいますが、やってみると大体2か月くらいで潰れてしまいます。ですから、うちでは「週2回以上は出さない。」ただし、「週1回以上は必ず出る。」としています。

都合で出られない方には決して強制しませんが、自分が出ないと仲間に迷惑を掛けるなというような雰囲気は作られています。一つにはそんなこともあると思います。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。河合さん、先ほど小学校区がとても重要だというお話がありました。また担い手の役割分担も重要ということでした。河合さんはこれまで警察の立場でしたが、今は東京都ですね。広域行政として、警察として、地域で子供見守りの目を増やしていくためにはどうすればよろしいでしょうか。

先ほど五十嵐さんから、これまでの都の取組事例の話があったので、気になる所を中心にお話しただけですか。

河合 潔（東京都青少年・治安対策本部長）

先ほど五十嵐部長から、子供見守り活動事例集の発行など取組のモデルを示していくことが東京都の役目だとお話しました。

もう一つ東京都がやっていることとして、（地域の）目を増やすために、「こういう取組があります。」ということに加え、「こういうことをするときには、こういう支援があります。」ということをお伝えしています。例えば、一定の要件を満たすボランティア団体への支援、装備品の支給などがございます。さらに、新宿での取組も紹介いたしましたが、学生の方々にも参加いただける機会を設けています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。高野区長が先ほど話されたセーフコミュニティ、セーフスクールの取組はいずれも科学的で、それをコミュニティ、地域の協働で、そして予防に力を入れながら、基礎的自治体としていろいろなことをやられている訳ですけれ

ど、そういう視点から地域で子供見守りの目を増やしていくため、自治体としてどんなことができるのか、特に気になることがございましたらお願いします。

高野之夫（豊島区長）

本杉さんのお話のように、ボランティア組織によるパトロールや見守り活動については、まず、行政としてしっかりと支援していかなければなりません。そして、見守りの目を増やすという点では、組織的な活動とまでいかななくても、住民一人ひとりが少しでも見守りの目を持っていくことが重要ではないかと思います。

そのためには、行政として、交通事故や犯罪の発生状況、発生場所など、安全・安心に関する地域の情報を分かりやすく提供することが大事ではないかと思います。

さらに、その情報も、行政が一方的に作るのではなく、やはり地元の皆さんと一緒に作っていく。これが非常に大切だと思います。朋有小学校のセーフスクールでも、多くの保護者や児童と一緒に参加して、どういう所が危険かをつぶさに調べて、情報を持ち寄って、話し合いながらマップを作りました。このことが大事だと思っています。

ちょっと画面をご覧ください。

（スクリーンに、地域の人と一緒に作成した区内の交通事故マップを表示）

こうしたものを保護者と児童と地域の方が一緒に参加して作る。こうした情報は、効果的な見守り活動や、どうしたら解決できるのかを考えることにつながると思うので、私は大事であると思います。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。警察から提供された情報を、基礎自治体として提供していく。その際、地域の住民や子供の保護者と一緒に情報を集めて共有する。一緒に行うことはどういうことか、具体例をお話しいただきました。

横澤さん、子供を見守る担い手は、一義的には保護者、子供の親だと言われますが、保護者も明日の暮らしをどうしていくかなど大変忙しい中でやることも限られています。子供の見守りを増やすという意味で、PTA、あるいは保護者としてできることについて、一言お願いします。

横澤由明（練馬区小学校 PTA 連合協議会会長）

練馬区内の PTA ではアンケートを取っています。地域性もあるので大なり小なりはあると思いますが、ほとんどの学校（PTA）で見守り活動をやっています。しかし、

PTA あるいは保護者だけではなかなかカバーしきれないというのが実情でございます。先ほどもお話ししたとおり、行政、地域、PTA、学校が横展開できるシステムづくりがあった方がよいのではないかと思います。

例えば、練馬区では、東日本大震災がありました関係上、防災に関する避難拠点運営連絡会がございます。これは練馬区と学校と地域住民で組織した連絡会で、学校を中心に防災に関するいろいろなことをやっています。こういう仕組みを作ることによって見守りの目を増やせるのではなかろうかと思っています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。それぞれのお立場でできることをお聞きしたのですが、皆さん共通して自分の所だけでなく、一緒に取り組むことでこういうことができる、これまでの取組やこんな可能性があるのではないかというお話がありました。

河合さん、先ほど五十嵐さんから東京都として「隙間を作らない。」というお話がありました。皆さんはそれぞれできることをやっているし、またそれぞれで連携してやっている訳ですが、どうしてもやはり隙間が出てきます。

先ほど「区境」の話がありましたが、広域行政として、その辺りも含めて隙間を作らないための取組とはどういうものでしょうか。

河合 潔（東京都青少年・治安対策本部長）

連携するという場合でも、「区境」などまさに地域的な境目が存在します。警察にしても行政機関にしても、その活動はここまでが何々警察署の管轄区域、あるいは東京都の区域、埼玉県との区域というものが前提となります。そうすると、どうしても境目の所の「力」は薄くなるということがあります。そういう時にどのように連携するのか。あるいは、区と区の境で何か起こった時にどうするのかということが問題になります。それぞれに「管轄区域での責任を果たすのだから、（そこから先は）関係ないのではないか。」ということになりそうです。しかし、実際にはそうした所で犯罪が起きる、いろいろな事件、事故が起きる。そして事件、事故が起きた時には手助けができない。あるいは活動が手薄になっているという問題があります。

そういう時はどうするのかと考えますと、例えば埼玉県と東京都の区域の境目で犯罪が起きた時は、警視庁と埼玉県警察で協定を結んで対応しています。

一方、区ではどうするのかと言えば、一つの例ではございますが、世田谷区と杉並区で合同パトロールをするというように、少しでも手を伸ばして合同で何かを試みてはどうかと思います。合同の活動とまではいかななくても、情報の共有、これによっ

ても隙間を少しでも減らすことができるのではないかと思います。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございます。高野さん、今、区の連携という話がありましたが、とにかく行政というと縦割りと言われます。縦割りを連携によって隙間をなくそうと言われま
す。セーフコミュニティやセーフスクールでは、縦割り等の既存の枠組みを乗り越えて、一緒に協働していく取組を進めていますが、隙間を作らないための対策としてお
考えをお話しいただけませんか。

高野之夫（豊島区長）

行政はやはり縦割りですから、それぞれの分野で一生懸命地域の皆さんと活動をして
いる。セーフコミュニティやセーフスクールは、一定の地域エリアにおいて、安全・
安心をテーマに分野の壁を乗り越えて連携する活動です。

河合本部長が言われたように、まず情報を共有しながら一緒にできることがあるか
具体的に地域の人たちと話し合いながら進めていくことが大事であると思います。

豊島区の場合は、小学校区単位で児童館あるいは「寿の家」というものを廃止して、
地域区民広場というものをたった一つではありますが、小学校区に作ります。今、区
内には22学区ありますので、そこに一つずつ作ります。

豊島区だけの話となりますが、地域区民広場は絶えず連携を図ってまいります。こ
のことが一番大事で、それぞれの地域にはその状況や状態に特色があります。統一的
に全部一緒にやるということは非常に難しく、そういう意味では、互いに連携を取れ
るところは取りながらやっていくという形にしています。

周辺の区の皆さんとは情報交換を含めながら、まだ共有という形には進んでいま
せんが、これもこれからの大きな課題ではないかと認識しています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。セーフコミュニティは5年後、セーフスクールは3年
後に再認証が求められますから、持続的にやっていかなければなりません。今後もさ
らに連携を深めながら取り組んでいくということですね。

そのセーフスクールは、「学校が地域と連携しながら」ということになっておりま
す。秀嶋さん、先ほど学校にできることで大事なことは何かと伺ったとき、地域と
の信頼関係の構築を挙げられました。そこで隙間を作らないための取組として、何か
お考えがあればご披露ください。

秀嶋善雄（教育庁地域教育支援部長）

学校か教育委員会かという話にもなりますが、私どもの取組には学校支援ボランティア推進協議会事業がありまして、実際活躍されている方の中には現役のPTAやそのOBもおられます。問題はどうしても縦割りになりがちなので、学校と違う立場で（そうした方々にも）入っていただき、接着剤のような形で上手くやっっていこうという取組を各区市町村でも模索しています。

実際に、実施校も増えてきています。様々なPTA活動をされる方は、地域でも活躍されております。そういう方もたくさんおられると伺っていますので、そういうものも上手く活用できるかなと考えています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございます。本杉さん、明大前の駅前には世田谷区ですね。明治大学は杉並区にありますが、区境ということで、なかなか交番ができないということでした。そういう中で、民間交番を作り区境の隙間をなくしていこうとされた訳ですけども、商店街として、ボランティアとして、子供を見守るときの隙間を作らないための取組についてはいかがでしょうか。

本杉 香（明大前ピースメーカーズ代表）

私たちの中で、朝の見守りに出勤できるのは57人の隊員中せいぜい4、5人です。そのほか小学校の、昔の緑のおばさんが2人出られますから、せいぜい5、6人で朝の見守りをしています。そうすると長い通学路ですから隙間だらけなんです。この隙間を何とか埋めるため、通学路の沿道の住宅の方に、我々ピースメーカーズから「ぜひ朝、見守りをしてほしい。」というお願いの文書を配りました。

一応、成功したのですが、これは組織化されていないものですから、なかなか常時やってもらえるという訳にはいきません。それから我々は制服を着ていますから子供も一見して分かるのですが、この見守りの人たちは制服を着ていないものですから、特に男性、おじいちゃんが道路に出て通学路でウロウロしていると、子供は慌てて学校へ行き「不審者が出た。不審者が出た。」と大騒ぎになる事態がありました。

これはちょっと考えようということで、それまでは子供が通学のとき、家の中でお母さんが「行ってらっしゃい」と言っていたのを、「ちゃんと子供と一緒に玄関まで出て、道路で子供が見えなくなるまで、また見えなくなっても5分間は見守りをしてください。」という運動を始めました。

地元の北沢警察署や世田谷警察署、新宿警察署にも取り上げていただき、いろいろな警察署管内でPTAを集めた運動を始められました。これは効き目がありました。学校の先生に聞きますと、子供の朝の態度がすっかり変わったようです。「やはりお母さんにずっと見守られていると思うと、スキップをするような気持ちで学校へ行き、勉強に対する姿勢も違うようです。そして帰宅後も、お母さんが見ていてくれたという嬉しさから、親の言うこともよく聞くようになり、勉強も良くなるようになった。」ととても評判が良かったのですが、なかなか続けてもらえませんでした。

お母さんに言わせますと、「朝の5分がもの凄く忙しい。洗濯しなければならない。お掃除しなければならない。お勝手に洗い物をしなければならない。その上、お化粧品もしなければならない。」ということで猛反発がありました。「それでは5分早く起きて、見守りしてください。」とお願いし、何とかお母さん方に納得いただきました。その後はかなり実績を上げています。

この取組は、できるだけ隙間を埋める一つの方法で、何とかもっと伸ばしていきたいと思っています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。横澤さん、これまで地域や行政、学校の立場で隙間を埋めるための取組をお話していただきました。最後に本杉さんから「お母さん方も隙間を埋めるためによりしくお願いします。」という話がありました。PTAや保護者の中には頑張っている方もいらっしゃると思いますが、忙しいですね。いかがでしょうか。

横澤由明（練馬区小学校PTA 聯合協議会会長）

とても参考になるお話でした。我々PTAも、学校ごとに「単P」という小学校単位のPTAで活動しています。学校ごとに活動の濃淡があると思いますが、我々聯合協議会は各単Pが集まった組織です。中でも練馬区では「校外補導委員」が校外パトロールや防犯等々の活動をしています。今のお話ではありませんが、一つの仕組みを作り、各単Pへお伝えすることはできると思います。ただ強制力はないので、なかなか「そのとおりやりなさい。」とは言いづらいところです。

山本俊哉（コーディネーター）

そうですね。ボランティアもPTAも任意の取組ですから、そういう中でどうしても空白ができて、（子供が）危機に直面することもあります。いざというときに備え、

「子供110番の家」の設置を進め、「地域安全マップづくり」を通じて危機回避能力を高めています。河合さん、この2点について今後の課題をお話いただけますか。

河合 潔（東京都青少年・治安対策本部長）

「地域安全マップ」、「子供110番の家」というお話がございました。これらをさらに普及させることが大切です。その上で、子供は「地域安全マップづくり」を勉強しますが、できればどうやって危機を回避するのかの訓練ももっと必要ではないかと思っています。あまり過剰な期待をしますと子供の負担となり、結局何も覚えられないことになってしまいますが、やれることをやってもらう。「子供110番の家」も駆け込む所はどこなのかということを実際に認識してもらうということが大事です。

もう一つ、「地域安全マップ」についてお話ししますと、折角、子供がマップを作っても、地域の環境改善にちゃんとつながらなければいけません。言い換えますと、自治体が全体として危険箇所を改善することも必要となります。

地域安全マップにより環境改善をするときには、警察や役所の方々にも同行していただき、実際に変えていくことまで行えば子供の危機回避能力が高まるだけでなく、親として、あるいは地域としても安全性を高めることになるのだと思います。

山本俊哉（コーディネーター）

そういう意味で高野さん、セーフコミュニティにしてもセーフスクールにしても、どこでどんなことが起きているのかなどの根拠に基づいたプログラムを用意する必要があります。つまり安全な学校、安全な地域であることが認証されたのではなく、安全性を高めるプログラムが認証されました。どちらかと言えば予防に力を入れていますが、豊島区には防災の問題もありますし、交通事故の話もありました。安全領域を包括的に取り組んでおられますが、子供の「空白のとき」の危機管理について気になることがあればお話しください。

高野之夫（豊島区長）

「空白」の話の前に、河合本部長が言われたように「子供110番の家」の協力者と子供とが噛み合っていないというか、顔を合わせる事が少ないのが実情ではないでしょうか。

豊島区では、日頃から「子供110番の家」の協力者と子供とがコミュニケーションを取ったり、「地域安全マップ」を作る際に「子供110番の家」を児童が訪問して危険箇所について話を聞くといった取組を行っている学校があります。

ある学校では、小学 6 年生が卒業する時に「本当にお世話になりました。」というお手紙を子供から「子供 110 番の家」の協力者へ出しています。そうすると、その表示を出している家では「役に立っているのだな。よし、頑張ろう」という気持ちと誇りが高められます。そういう意識がまちに広がっていくことが地味だけれど必要ではないかと思います。

私どもはセーフコミュニティやセーフスクールの認証をもらいましたが、それはお墨付きをもらって終わりではなく、新たなスタートでもあるのです。地域課題の解決を目標として、広く情報を共有しながら、細かい改善の積み上げを進めています。

また「隙間」という点では、学校にいるときは非常に安全だけれど、学校から外に出た場合、我々にはどういう対応ができるのかということについて、やはりそれぞれみんなが真剣に子供たちに目を向けていくことが大事ではないかと思っています。

山本俊哉（コーディネーター）

ありがとうございました。パネルディスカッションが盛り上がってきましたが、終了時間を迎つつあります。本日は 4 時 30 分までというお約束ですから、私から簡単に取りまとめをさせていただきたいと思います。

今日は、「通学路における子供の安全確保のためにできること」について、それぞれの立場からお話をいただきました。共通したキーワードは、「信頼関係の構築」、「持続可能性」、「連携」、それらの「仕組みづくり」でした。その具体的な方法としてセーフコミュニティやセーフスクールが挙げられましたし、また形骸化・形式化している「子供 110 番の家」の取組をもう少し深めていかなければならないなどの課題も挙げられました。犯罪の問題からスタートしましたが、言葉の端々に、交通安全や防災の問題も挙げられ、それらを通じた連携の重要性も指摘されました。

最後に、高野区長から「セーフコミュニティもセーフスクールも出発点だ。」という話がありました。このシンポジウムも、今後更に「連携していくための出発点である。」ということを確認いたしまして、パネルディスカッションを終わりにしたいと思います。

フロアーの皆さんからもご意見をいただきましたのですが、ご容赦ください。ありがとうございました。パネリストの皆さんに拍手をお願いします。（場内、拍手）

司会

山本先生、パネリストの皆様ありがとうございました。ご来場者の皆様方に「よし、明日から頑張るぞ。」という気持ちになっていただけたならば、主催者としてこれに

勝る喜びはございません。子供は地域の宝です。皆様の力を合わせて子供の安全確保を図ってまいりましょう。

なお、ボランティアや保護者の方々へ、本日お配りした資料の中には、東京の犯罪状況や子供見守りの活動事例集を入れてございます。日頃の皆様の活動の参考としていただければ幸いです。以上をもちまして、終演となります。

本日はご来場いただき、誠にありがとうございました。

どなた様もお忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

なお、5階の入場ゲートで、アンケートを回収させていただきます。皆様、忘れずにご提出をお願いいたします。ありがとうございました。

(以 上)